

刈り遅れに注意しましょう！（8月）

高温の影響により登熟が進み、収穫期の前進が予想されます。刈り遅れは「胴割れ米」や「茶米」の発生が助長され、米の品質低下につながります。
適期に刈取作業が始められるよう準備を進めましょう。

刈り取り適期の判断のポイント

1 登熟積算気温

出穂期から登熟期間中の毎日の平均気温を合計した「登熟積算気温」が、品種ごとの基準に到達したら刈取適期となります。あらかじめ収穫時期のめやすを把握し、刈取作業に備えましょう（裏面参照）。

2 もみの水分率

もみの水分が25%になったら収穫を開始しましょう。
昨年の早期コシヒカリの調査では、1週間で5～6%ほど低下しています。

3 高温年は「帯緑色もみ割合」は参考程度に

高温年はもみの色が緑色でも中の玄米の登熟が進んでいることがあるため、出穂後日数やもみ水分なども考慮して、総合的に判断しましょう。

【主要な品種の収穫期のめやす】

品 種 名	作 期	積算気温(℃)	帯緑もみ割合(%)	出穂後日数(日)
コシヒカリ	早期	950～1,150	15～10	33～40
キヌヒカリ	早植	980～1,180	35～15	34～42
	普通期	950～1,200		35～45
彩のきずな	早植	900～1,200	50～10	31～42
	普通期	900～1,100	40～15	33～41
彩のかがやき	早植	910～1,100	90～45	34～42
	普通期	1,010～1,250	55～25	40～52

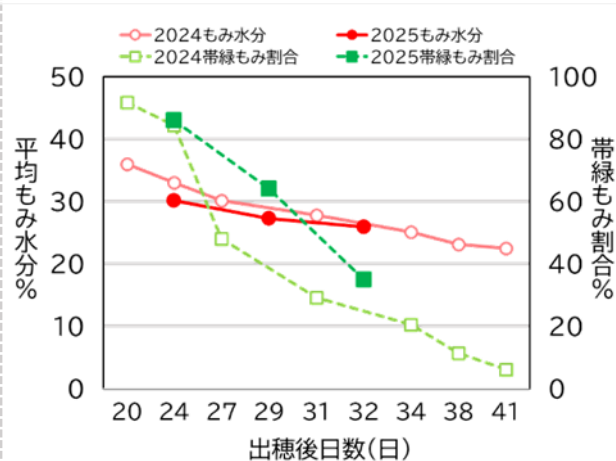
本年のもみ水分等の状況

玉井試験場のもみ水分の測定結果は以下のとおりです。
昨年同時期に比べてもみ水分は低くなっています。
昨年より気温が高く、成熟が早まっていると考えられます。
なるべく収穫適期の前半で刈取を行うようにしましょう。

「コシヒカリ」(5月1日植)の測定結果

5月1日植 コシヒカリ	測定日	出穂後日数 (日)	積算気温 (℃)	帯緑もみ 割合(%)	もみ水分 (%)
7月20日 出穂	8月13日	24	691	86	30.1
	8月18日	29	836	64	27.3
	8月21日	32	930	35	25.9

※もみ水分等の測定結果については、農技研HP
(農作物の生育状況)もご覧ください。
右のQRコードからどうぞ。



【参考】もみ水分、帯緑もみ割合の推移
(5月1日植コシヒカリ 2024年、2025年)

○ 気象データから予測した収穫期のめやす

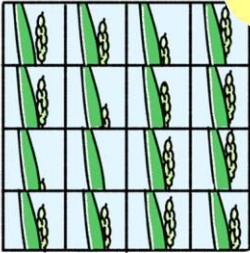
	田植日	出穂期	収穫期予測
コシヒカリ	5月1日	7月20日	8月21日 ~ 8月28日
	5月15日	7月25日	8月26日 ~ 9月2日
キヌヒカリ	5月15日	7月24日	8月25日 ~ 9月3日
	6月20日	8月13日	9月15日 ~ 9月26日
彩のきずな	5月15日	7月22日	8月22日 ~ 9月1日
	6月20日	8月11日	9月11日 ~ 9月19日
彩のかがやき	5月15日	8月7日	9月8日 ~ 9月15日
	6月20日	8月21日	9月28日 ~ 10月10日

※田植日・出穂期は玉井試験場の栽培状況、収穫期の目安は8月25日現在の熊谷地方気象台の気象データ（予測日前日までの観測データ、予測日以降の予測データ）を基に農技研開発の「農作物発育予測プログラム」を用いて算出したものであり、今後の気象状況により前後することがあります。

今年は記録的な猛暑により、予測より収穫が早まることも想定されます。
間断かん水を行い、根の活力維持と地耐力の向上に努め、適期収穫を行いましょう。

起点となる「出穂期」を
正しくとらえていますか？

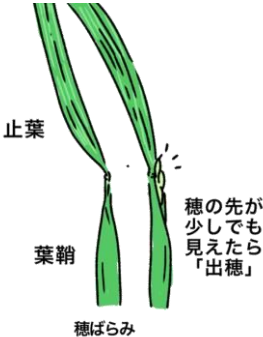
感覚的な「出穂期」と
ずれが生じている
場合があります



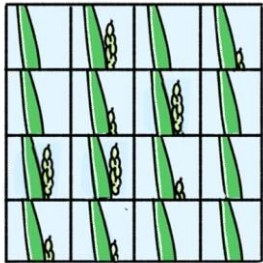
出た出た！



①葉鞘の先から穂の先端が
少しでも見えたら「出穂」です



②ほ場の約5割が出穂した頃が
「出穂期」です



ほ場全体の約5割が出穂



穂が出揃うよりも前の段階が「出穂期」となります。
数日のずれが発生しますので正しく把握しましょう。

農作業時の熱中症にご注意ください